

ジレンマを感じる具体的な場面で学ぶ!



高齢者の“身体拘束”を防ぐ 組織・環境づくりと 管理者がすべきアプローチ

身体拘束を予防するために、
患者に応じたケアを
組織で考えて実践する方法

長谷川 美栄子氏

社会福祉法人 愛全会 高齢者総合福祉施設
サン・グレイス ケア部長
前・医療法人東札幌病院 理事・顧問

東札幌病院看護部長・副院長・理事などを経て2020年4月より現職。2018年まで日本看護倫理学会理事長を務め、同会臨床倫理ガイドライン検討委員会委員長として【身体拘束予防ガイドライン】【医療・看護を受ける高齢者の尊厳を守るためのガイドライン】の作成に尽力する。現在は同会評議員、日本看護協会「看護者の倫理綱領」検討委員も務め、医療者、市民に向けての講演や執筆を精力的に行っている。

名古屋	20年 8月30日(日)	日総研ビル	[3]
東京	20年 11月1日(日)	LMJ東京研修センター	[2]
札幌	20年 11月28日(土)	道特会館	[4]
網走	20年 12月5日(土)	網走厚生病院講堂	[5]

【講義時間】いずれも10:00~16:00 ※網走地区は8/1(土)から12/5(土)に日程変更になりました

参加料 税込 一般 19,000円 会員 16,000円
※会員は日総研雑誌(定期刊行物・会員制)の年ぎめ購読者です。
※昼食代は含まれません。昼食は各自でお持ちください。
※ご参加いただくには事前のお申し込みが必要です。※最少催行人数11人。

プログラム

1. 高齢者の尊厳を守るために看護管理者がすべき役割
 - 高齢者の尊厳を守るとはということか
 - 高齢者の尊厳を守るためのガイドラインの正しい解釈
 - 尊厳に関わる場面でスタッフにどのように理解を促すか
・日々のケアの場面で ・カンファレンスの場面で
2. 身体拘束を予防する環境づくり
～身体拘束予防ガイドラインを活用した
看護管理者やスタッフの意識の持ち方・持たせ方
 - 身体拘束となる行為を今一度押さえる
 - スタッフ個々ではなく組織全体で身体拘束をしない環境をつくる
 - 身体拘束廃止を目標にしない ●身体拘束をせざるを得ない場合とは
 - カンファレンスや日々の指導でスタッフが納得する伝え方・考え方
3. 身体拘束予防と看護管理者がすべきアプローチ
～ジレンマを感じる具体的な場面で考える!
スタッフへ伝えるべきアセスメントとケアの視点
 - なぜ身体拘束をしないことに踏み切れないのかを明らかにする
 - 成功体験(身体拘束をしないケアの実現や解除できた例など)を知る
 - よくある場面で考える! 身体拘束予防を部署内で浸透させる方法
 - ① 転倒転落の危険がある
 - ② チューブ類を抜いてしまう
 - ③ 攻撃的である など
 - 患者がなぜそのような行動をするのかアセスメントする
 - それに基づいたケアを考える ●身体拘束を解除するために

このセミナーの詳細はインターネットで検索!

日総研 14932

検索

関連雑誌

月刊誌(定期刊行物・会員制)

現場を変え、動かす力! 根拠ある実践管理 ナースマネジャー

B5変型判 2色刷 96頁 入会金 3,000円(税込)
年間購読料 23,100円(税込) 1部頒価 1,925円(本体1,750円)

6月号以降特集

- 師長さん、自己流ではない「教育スキル」を持ち合わせていますか?(6月号)
- 退院後の生活をイメージできる病棟看護師の育成(7月号)
- 主任・リーダーを“管理者”として育てる事が、師長の重要ミッション!(8月号)

16年連続合格者数全国No.1!

厚生労働大臣指定 一般財団法人 日本総合研究所

社会福祉士養成所 通信課程

4月開講! 募集要項はダウンロードできます

日総研 社会福祉士 検索

日総研 接遇大賞

優れたサービス
取り組みを表彰

事例発表会は3月。応募は9月30日まで。

取り組み事例の紹介記事はこちら

接遇大賞 検索

お問合せ
ご注文

TEL: 0120-054977

URL: www.nissoken.com

日総研

検索